

WEEK1 アクティブ・ラーニングについて知ろう

ワークシート目次

1. SESSION 1 アクティブ・ラーニングとは
2. SESSION 2 アクティブ・ラーニングの現状
3. SESSION 3 アクティブ・ラーニングを選ぶ
4. SESSION 4 アクティブ・ラーニングの方法を適用する
5. SESSION D 自己紹介
6. 各セッションの多肢選択課題一覧
7. 参考文献

WEEK1 の目的と目標

目的 アクティブ・ラーニングについて理解を深める

到達目標

1. アクティブ・ラーニングとは何かを説明できる
2. アクティブ・ラーニングの現状を説明できる
3. アクティブ・ラーニング手法の適用について説明できる





1. SESSION 1 アクティブ・ラーニングとは

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W1.S1.Question1

皆さんにとって「アクティブ・ラーニング」とはなんですか？

「アクティブ・ラーニングって何？」と聞かれたらどう答えますか？

(あなたの考え)

W1.S1.Question2

次の3つの定義をみて、これらの共通点を探してみましょう。

「学生を巻き込んだ学生自身が活動し、その活動自体について思考する、取り組みの全て」

(Bonwell & Eison, 1991)

「授業において、学生が単に『見たり』『聞いたり』『ノートをとったり』する以上の活動をするようデザインされた教授内容に関係すること全て。」(Felder & Brent, 2009)

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学修法の総称」(文部科学省, 2012)

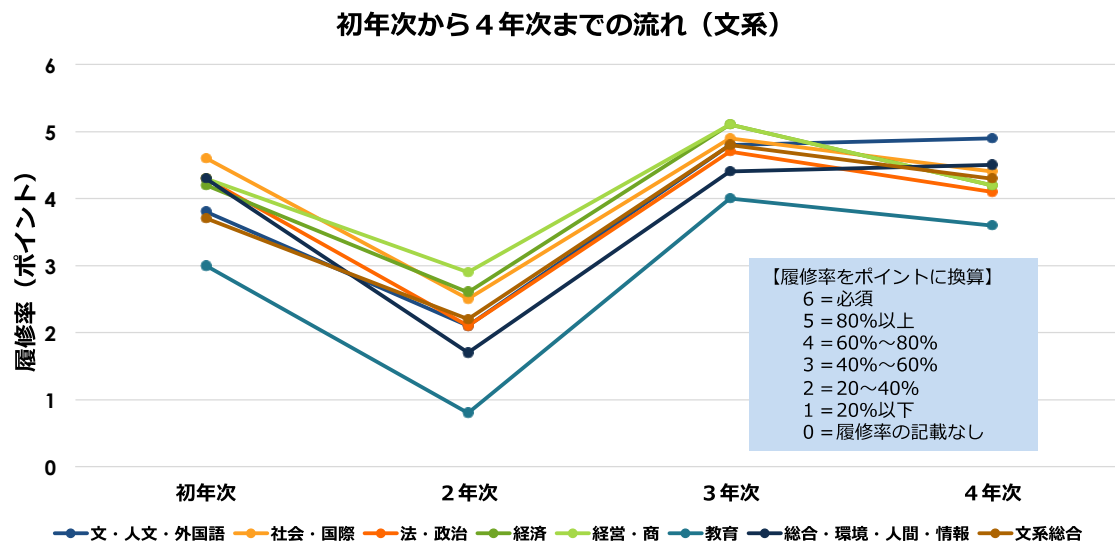
(あなたの考え)

2. SESSION 2 アクティブ・ラーニングの現状

下記はこのセッションで使う Handout です。お手元においてセッションの動画を視聴して下さい。

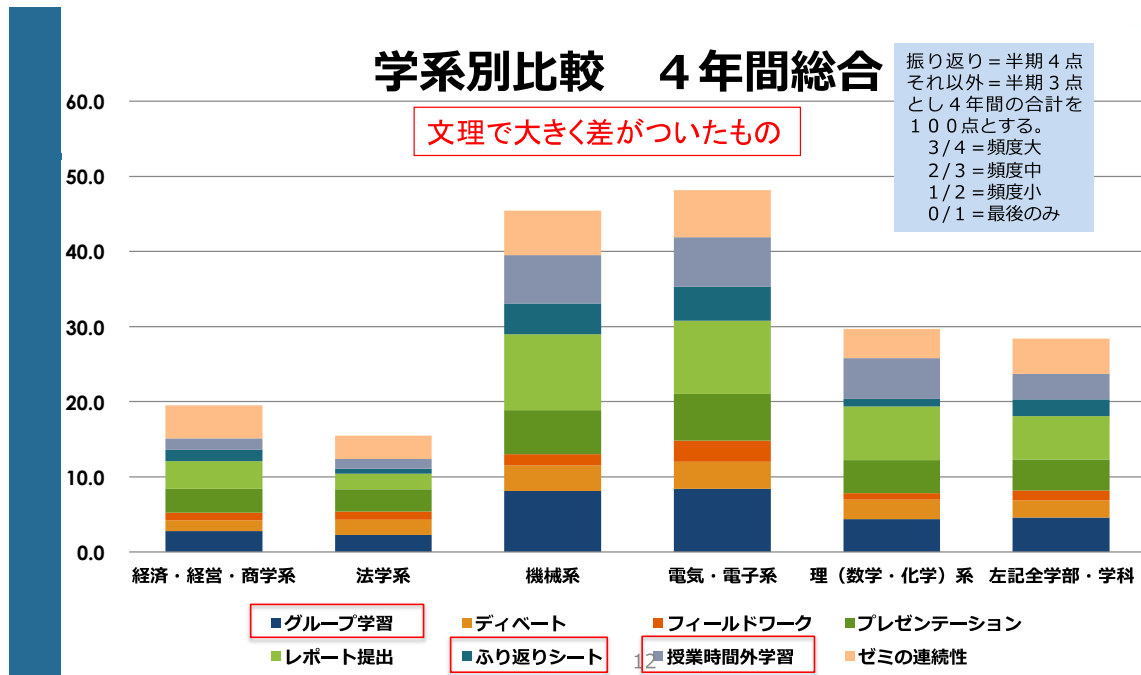
W1.S2.Handout

学年別／系統別にみる 初年次ゼミ、課題解決型科目、専門ゼミの平均履修率（ポイント）の合算



初年次ゼミに含まれるアクティブラーニングの形態(半期3点満点)

	対象科目数	グループ学習	ディベート	フィールドワーク	プレゼンテーション	振り返り	時間外学習
文・人文・外国語学系	377	1.7	1.2	0.7	1.8	1.5	1.8
社会・国際学系	203	2.1	1.6	1.2	2.0	1.7	1.8
法・政治学系	134	1.9	1.5	0.8	1.9	1.5	1.6
経済学系	112	1.8	1.3	0.8	1.8	1.6	1.6
経営・商学系	246	1.9	1.2	0.8	1.8	1.5	1.6
教育・教員養成系	47	2.0	1.2	1.2	1.6	1.6	1.4
理学系	126	1.8	1.2	0.8	1.8	1.8	1.7
工学系(建築学系を除く)	452	1.9	1.2	1.1	1.4	1.4	1.5
建築学系	101	1.8	1.0	1.3	1.5	1.3	1.4
生物生産・応用生命学系	57	2.2	1.4	1.4	1.5	1.4	1.6
総合・環境・人間・情報学系	164	1.9	1.3	1.1	1.9	1.4	1.5
全体	2019	1.9	1.3	1.0	1.7	1.5	1.6





3. SESSION 3 アクティブ・ラーニングを選ぶ

下記はこのセッションで使う Handout と Question です。お手元においてセッションの動画を視聴して下さい。

W1.S3.Handout ミニツツペーパーの例

--

名前	年 月 日
今日の授業を受けて、もっと学んでみたいと思ったことは何ですか。	

W1.S3.Question1

多様なアクティブ・ラーニングのなかから目的に応じて手法を選ぶ際の観点として、「形態」、「時間」、「構成」、「大人数講義に使えるかどうか」以外に追加したらよいと思う観点を考えてみましょう。

(あなたの考え)

4. SESSION 4 アクティブ・ラーニングの方法を適用する

下記はこのセッションで使う Handout と Question です。お手元においてセッションの動画を視聴して下さい。

W1.S4.Handout

豆腐の「さいの目」切り



- ❖ さいの目切りとは1センチ角の正六面体になる切り方です。
- ❖ 掌に豆腐をのせます。
- ❖ まず包丁を寝かせて水平に2,3本の切り目をいれます。
- ❖ 横・縦に垂直に切ってできあがり。
- ❖ 【注意点】垂直に切るとき,包丁を前後に動かしてはいけません。

10



W1.S4.Question1

実演や実習ができない場合に、「豆腐のさいの目切り」についての一方向ではない授業方法を考えて下さい。

(あなたの考え)



5. SESSION D 「自己紹介」はなぜ重要？

DISCUSSION のセッションでは、「インタラクティブな学び」が実際に体験できるよう、ワークシートに取り組んでから、動画を視聴していただきます。第1回のテーマは「自己紹介」。動画ではまず、これからともに学ぶことになる大学院生の自己紹介を視聴していただきます。さらに、教員の自己紹介が学生の学びに果たす役割について考えてゆきます。皆さんも以下のワークに取り組んで自己紹介の役割について考えてみましょう。

W1.D

皆さんが大学で受けた授業で教員はどのような自己紹介をしていたでしょうか。大学の授業における教員の自己紹介が、学生の学びのために果たす役割について下記に箇条書きで書き出してみましょう。







6. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W1-1 アクティブ・ラーニングの説明として、適切な説明を全て選んでください。

- 1) 学生自身が活動し、その活動について思考することで学ぶ。
- 2) 学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように、教員が授業方法を設計する。
- 3) 学生が、見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動をする。
- 4) 教員が少人数の学生を相手に授業を行う際の方法を指す。

W1-2 アクティブ・ラーニングが注目されるようになった背景の説明として、適切な説明を全て選んでください。

- 1) 「考え抜く力」や「チームで働く力」を含む「社会人基礎力」（経済産業省）のように、従来の知識伝達型の授業では培えない能力が求められるようになってきた。
- 2) 専門分化が進む社会において、各人が高い専門性を習得しなければならないという認識から、高度な知識やスキルを習得するための受動的な学習形態が注目され始めた。
- 3) 学校・大学を選ぶ際に基準とされてきた偏差値の信頼性が問い直されるようになってきた現代、よい学校・大学を選ぶための新しい指標が求められるようになった。
- 4) コミュニケーション能力や問題解決能力の重要性が認識される中で、初等・中等・高等教育のあらゆる段階において、こうした「汎用的技能」（文部科学省）を養える教育方法への注目が高まった。

W1-3 様々なアクティブ・ラーニングの手法の中から自分の授業に合うものを選ぶ際、どのような点を考慮するべきでしょうか？適切な事項を全て選んでください。

- 1) クラスのサイズ
- 2) その手法を行うことによって達成できること
- 3) その手法に割くことができる授業内の時間
- 4) その手法の知名度

W1-4 アクティブ・ラーニングの方法を適用するということについて、適切なものを全て選んでください。

- 1) 一般的に、「(一方向) 講義を聴く」、「実演を見る」、「実習を行う」、「自分で人に教える」の順に、学習が定着しやすくなるといわれている。
- 2) ちょっとした工夫でアクティブ・ラーニングを実現することができる。
- 3) 「(一方向) 講義」による授業は、学生が主体的に学べる方法の代表である。
- 4) 初学者レベルの学生同士に「人に教える」プロセスをたどらせることは、主体的な学びにつながらない。

7. 参考文献一覧

(セッションにおいて言及された文献等)

- Bonwell, Charles C. & Eison, James A. (1991) Active Learning: Creating Excitement in the Classroom, Jossey-Bass
- Felder, Richard M. & Brent, Rebecca (2009) Active Learning: An introduction. ASQ Higher Education Brief, 2(4)
- 経済産業省 (2006) 社会人基礎力 <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> (accessed 2014.10.01)
- Lalley, J. P. & Miller, R. H. (2007) The Learning Pyramid: Does It Point Teachers in the Right Direction? Education, 128 (1), 64-79
- 文部科学省 (2013) 第2期教育振興基本計画
http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/1336379.htm (accessed 2014.10.01)
- 文部科学省 (2014) 大学教育再生加速プログラム
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/ap/ (accessed 2014.10.01)
- 中央教育審議会 (2008) 学士課程教育の構築に向けて
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm (accessed 2014.10.01)
- 中央教育審議会 (2012) 答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm (accessed 2014.10.01)

(アクティブ・ラーニングについて)

- 河合塾 (2011) アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか——経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと—— 東信堂
- 河合塾 (2013) 「深い学び」につながるアクティブラーニング——全国大学の学科調査報告とカリキュラム設計の課題—— 東信堂
- 河合塾 (2014) 「学び」の質を保証するアクティブラーニング——3年間の全国大学調査から 東信堂

上記3冊は、Session2 でふれられた調査の元の調査をまとめた書籍です。

- 池田輝政、戸田山和久、近田政博、中井俊樹 (2001) 成長するティップス先生——授業デザインのための秘訣集 玉川大学出版部
- 新井和広、坂倉杏介 (2013) アカデミック・スキルズ グループ学習入門——学びあう場づくりの技法 慶応義塾大学出版会

この2冊はインタラクティブな授業作りについてわかりやすく説明されています。